

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

【久留米信愛短期大学】

1 短期大学の概要

(1) 設置する学科

幼児教育学科、フードデザイン学科

(2) 学科の入学定員、学生数の状況（令和元年5月1日）

学科名		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	備考
幼児教育学科	入学定員	100	100	100	
	収容定員	200	200	200	
	在籍者数	120	139	130	
	充足率（％）	60.0	69.5	65.0	
フード デザイン学科	入学定員	40	40	35	元年度 入学生 から 定員 35 名
	収容定員	80	80	75	
	在籍者数	38	37	45	
	充足率（％）	47.5	46.3	60.0	
全 学	入学定員	140	140	135	
	収容定員	280	280	275	
	在籍者数	158	176	175	
	充足率（％）	56.4	62.9	63.6	

(3) 卒業者、学位授与の状況について（令和2年3月31日）

	幼児教育学科	フードデザイン学科	合 計
平成 29 年度入学生	0	1	1
平成 30 年度入学生	74	18	92
在籍者数	65 (退学 9)	19	84
卒業資格なし	0	0	0
卒業者(短期大学士)	65	19	84

2 はじめに

平成 29 年度には「信愛ひらくプロジェクト 2018～短期大学再生計画～」(5 年間の中期計画)を策定し、令和元年度は男女共学の完成年度でした。男子学生は 2 年生に 6 名、1 年生に 3 名となり、学友会の総務委員長に男子学生が立候補・当選し、信愛祭をはじめ学友会活動を指導することになり、信愛の新しい文化が誕生しました。

3 令和元年度の重点的取り組み

(1) 短期大学再生プラン

①現状と課題

平成 28 年度の入学生は幼児教育学科・フードデザイン学科ともに近年最も低い数字でした。平成 29 年度・平成 30 年度・令和元年度と V 字回復とは至りませんが回復傾向にありました。しかし令和 2 年度は幼児教育学科 40 名・フードデザイン学科 16 名、合計 56 名と短期大学設置以来最も充足率の低い数字となりました。

②開かれた学校づくり

主に 18 歳の女子を教育の対象とするこれまでの短期大学から、男女の区別や年齢の差、環境の違いや障がいの有無を超えた、多様な学習目的を持つ多様な人々に応じた、すべての人の夢を叶える短期大学の創造を目指します。高校生を対象とした高等教育提供だけでなく、学び直し場として、転職のための免許取得の場として、退職後のセカンドライフの学びの場として、リカレント教育の場として、さまざまなニーズに応える教育の構築に取り組みしました。

③学生募集の強化

ア 共学化への対応

令和元年度は男女共学の完成年度でした。2 年生は 6 名、1 年生は 3 名の男子学生でした。9 名とも本学にふさわしい学生で、信愛の新しい文化をつくりだしてくれました。そのうち一人は令和元年度の総務委員長に選出され学生たちをリードし、他の一名は信愛幼稚園に就職しました。

イ 社会人入学生の開拓

社会人入学生を増やすため、「パコラ」での広告やウェブサイトでの広報を強化した結果、16 名の社会人入学生を迎えることができました。

ウ SNS を使用した広報

ツイッター・フェイスブックを広報活動に使用し、動画を積極的に導入しました。

エ マスメディアによる報道広報

地域のイベント等に学生が積極的に参加し、新聞等での報道を活性化しました(「ココ、カラダ。」「カリブロくん」等)。

(2) 新規中期プラン作成

2018(平成 30)年度から 2022(平成 34)年度までの 5 年間の短期大学の中・長期計画(「信愛ひらくプロジェクト 2018～短期大学再生計画」)を策定しました。

(3) 大学改革等による外部資金の獲得

「私立大学等改革総合支援事業」にエントリーし、「私立大学等改革総合支援事業 タイ

「プ3 地域社会への貢献」に採用され補助金 4,887,000 円を獲得しました。単独採用校は九州の私立短期大学 37 校中 6 校でした。

4 幼児教育学科

(1) 教育活動の充実

①令和3年度に予定する教職課程新カリキュラムへの完全移行のために、本学科カリキュラム改編の検討を実施し、それに合わせた教員配置等の準備として教員公募を実施しました(2名採用)。また新たにスポーツ・レクリエーション指導者の資格取得プログラムを導入し、「スポーツ・レクリエーション概論」の新規科目を開講しました。

②保育・教職実践演習で作成する履修カルテを基に、学生ポートフォリオを用いた学生への教育支援プログラム、ゲストスピーカーとして保育現場で活躍する保育者を招いて行う実践的な学習プログラムを実施しました。また、実習指導プログラムの見直し・改善として実習指導マニュアルの改編を行いました。

(2) 学生支援の充実

就職部と連携して保育職面接特訓講座などを実施したほか、福岡県幼稚園連盟の筑後部会・福岡部会、佐賀県幼稚園協会と養成校との懇談会、福岡市保育協会、久留米市保育協会、大牟田市保育園連盟と養成校との懇談会への参加や実習訪問指導などの機会を通じて情報交換を行い、信頼関係を深めました。結果として保育職等の専門職の求人は1163件(求人数は1553人)を確保でき、就職率も3月末で100%(保育職等の専門職100%)を達成しました。

(3) 研究活動の活性化

研究活動の活性化として担当科目についての教育研究を学科の目標として挙げて取り組み、学会誌への投稿、学会発表、本学研究紀要への投稿、テキスト出版等を行いました。また、信愛保育研究会の活動として、卒業生の保育者と本学教員との共同研究を行い、本学紀要にて発表しました。

(4) 地域参画

①おもちゃライブラリーを拠点にして、地域の子育て支援に参画しました。具体的には昨年度に引き続き、「信愛つどいの広場」(週3回)、「子育て支援講座」(全12回を予定、ただし2回新型コロナウイルス感染予防のため中止)、「子育て相談」などを実施しました。また、地域の子育て支援に関する行政への協力として、久留米市社会福祉審議会や久留米子ども子育て会議等への委員協力を行いました。

②「チャイルドプロジェクト」では「表現研究会」、「ピアノ・トーンチャイム研究会」、「ボランティア研究会」、「保育の心理学研究会」、「からだあそび研究会」、「科学遊び研究会」、「造形の楽しみ研究会」の7つの研究会が、それぞれ保育や子育て支援の現場との連携した活動の実施、地域活性化を目的としたイベントへの参加をしました。またより充実した学生の研究活動を図るため、2年次1年の開講期を1年後期から2年次までの1年半に拡大しました。

(5) その他

①8月に幼稚園教諭を対象とした教員免許更新講習(一部台風のため9月・10月に延期)を実施、延べ340名が受講しました。

②入学志願者を増やすために信愛高校との接続プログラム、高大連携校(明光学園、福岡海

星女子学院高校、南筑高校、誠修高校）とのプログラムの実施、職業理解・進学ガイダンス等の高校で行われる出前講座への積極的な参加を行いました。結果として志願者増には結び付けることができませんでした。

③男子学生に対して担任・副担任を中心として個別支援を実施し、スムーズな共学への移行を進めました。結果として、平成30年度入学生の男子学生6名は希望する進路に進み、令和元年度入学生3名も保育者を目指して学生生活を送っています。

5 フードデザイン学科

(1) 「学科再生プロジェクト2018」

定員充足率「2020年度80%以上」に向けて、新入生「32名」が目標でしたが、新入生「16名」の入学確定となりました。結果、定員充足率「58.6%」に留まり、前年度の60.0%を下回ってしまいました。目標を達成するために、毎月学科会にて審議検討を重ねましたが、新たな企画には至らず、従来の計画を実施することになりました。前年度に比べ、社会人及び現役生のAO入学の減少が認められました。その理由は分析できておりません。

(2) 公開講座

令和元年度は、3講座開講しました。

① 「みんなの食育講座Ⅰ - 卓（テーブル）へのお誘い」

講師：八木なほ子（本学非常勤講師、食空間コーディネート協会認定講師）

- ・第1回「七夕で厄払い」令和元年6月8日（土）
- ・第2回「美味しい紅茶の入れ方」令和元年10月5日（土）

受講者数はのべ16名でした。

② 「みんなの食育講座Ⅱ - 健康寿命を延ばす食生活」

講師：石井妙子（教授、元済生会福岡総合病院栄養部科長）

- ・第1回「噛むことが難しい方のための調理の工夫」令和元年6月22日（土）
- ・第2回「飲みこみにくい方のための調理の工夫」令和元年6月29日（土）

受講者数はのべ7名でした。

③ 「みんなの食育講座Ⅲ - 手作りを楽しむ」

講師：山下浩子（教授）、山村涼子（教授）、眞部真紀子（准教授）〔開講順〕

- ・第1回「秋のおこわ」令和元年9月28日（土）
- ・第2回「おせち料理」令和元年11月30日（土）
- ・第3回「男子、厨房に入る」令和2年1月25日（土）

受講者数はのべ26名でした。本講座では、フードプロジェクトの一環として、2年次学生が第1、2回はボランティアスタッフ、第3回は企画から実施まで担当者として参画しました。

(3) 地域企業との共同開発

令和元年度は新規企業との共同開発はなく、前年度に引き続き「JAくるめ」、「生活協同連合会グリーンコープ連合」、『くるメディア』（西日本新聞）の3団体との連携活動に取り組みました。

(4) 地域参画

「フードプロジェクトⅠ～Ⅳ」(1～2 年全学期開講)を中心に、地域参画事業に取り組みました。令和元年度は、前年度に引き続きチャイルドプロジェクトとの共同活動、新たに「久留米リハビリテーション病院」の事業に参画しました。

①チャイルドプロジェクトと共同(教育改革推進事業)

- ・久留米信愛幼稚園年長児を対象に食育授業の実施
- ・食育保育教材の開発として、絵本『カリブロくん』の発行

②地域参画活動

- ・学生考案料理の企業広報誌掲載(JA くるめ/10 年、グリーンコープ/4 年)
- ・久留米市就学支援事業における食育ボランティア(6 年)、調理ボランティア(新規)
- ・「くるめフォーラム 2019」展示(4 年) / くるめ信愛菓販売(2 年)
- ・「信愛クリスマスショップ」出店(株式会社ハイマート久留米/3 年)
- ・「くるめ菓子祭り」ボランティア(久留米菓子協同組合/2 年)
- ・「安武校区子どもエコクッキング」ボランティア(久留米市環境部/2 年)
- ・「市民大感謝祭市場まつり 2019」くるめ信愛菓販売(久留米市/2 年)
- ・「聴覚障がい者対象食育講座」調理ボランティア(食と健康の和協議体との共同食育活動/2 年)
- ・「久留米リハビリテーション病院」とのコラボ企画、「収穫祭」及び「信愛カフェ」開催(新規)
- ・「くるめ食育フェスタ 2019」(展示) / くるめ信愛菓販売(新規)

(5) 「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

本年度は、フードデザイン室ほか調理・給食施設を下記の 3 団体(研修会)に施設開放を行いました。

- ・久留米大学講義「食と健康」における調理実習(2 回)
- ・久留米市学校給食会研修会(1 回)
- ・福岡県栄養士会研修(1 回)

6 おわりに

令和元年度は男女共学の完成年度であり、短期大学に新しい風土と文化が生まれました。就職率も 100%を継続し、地域貢献活動においても充実した 1 年でした。しかし、次年度の入学生数は大幅に落ち込みました。すでに「2018 年問題」と呼ばれた 18 歳人口の激減期に突入しており、今後全国で 100～170 の大学が閉じるとの試算もあります。文部科学省も大学数を減らす政策を推進しています。

久留米市の要請で設置された本学院であり、短期大学は平成 16 年に「地域参画宣言」を行い「地域参画型短期大学教育」を標榜してきました。とくに久留米市における幼稚園教諭・保育士及び栄養士の養成において本学は大きな役割を果たしてきました。

地域社会に対する使命と責任を果たすための持続可能性を検討しつつ関係各方面とも協議し、これからの方向を決断したいと考えています。

【久留米信愛中学校・高等学校】

1 重点目標の達成について

重点目標：カトリック教育理念に基づいた「一人ひとりを大切にする」教育を実践し、広い視野と多様性を受け入れる心を育み、いきいきと活躍する人間性豊かな生徒を育成する。共学化とともに学びの深化及びグローバル教育の強化を目指す。また、落ち着いた教育環境のもと、「分かる」から「できる」へ、寄り添い見守る教育を推進する。

年度初めの取組みとして、学びの習慣化を目指して初期指導の徹底を図りました。「自律確立週間」や「学習方法講座」において、3点固定（起床時間・就寝時間・学習開始時間の固定）を行うことやステラ手帳を活用し毎日の生活についてP D C A（計画・実行・振り返り・工夫）のサイクルをうまく回すことなどを指導しました。この指導は自律から自立へと、主体的に学ぶ者へと成長させるための基礎固めとして、日常の教育活動において挨拶の徹底、整理整頓、清掃の徹底を継続していく取組みです。

また、「信愛ひらくプロジェクト」の一環として、高大接続改革が本格化する2020年へ向けて学びの深化と国際理解教育を実践強化しました。さらに高大連携の交流・ネットワークの構築も図ってきました。国際理解教育の推進の結果、教員持ち時間数1/2の授業でICT教育を導入しています。合わせてアクティブラーニングのプログラムの充実や促進を図りました。

2 教育活動

- （1）生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講演会の実施や個人面談等のきめ細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。過去7年間の大学等合格状況の推移は次のとおりです。

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
卒業者数	105	89	90	79	77	84	77
国公立大学	※1 25	※2 25	※3 25	※5 23	※6 18	※7 14	※9 21
私立大学	129	117	138	127	131	101	112
海外の大学	0	3	※4 1	0	0	※8 1	0
短期大学	14	19	6	13	14	14	12
うち信愛短大	11	11	4	8	2	11	6
専門学校	11	9	9	6	9	15	6
就 職	0	0	1	0	0	0	0

※1 防衛大学校一次合格6名、水産大学校合格1名を含む。

※2 防衛医科大学校合格1名、防衛大学校合格1名、航空保安大学校合格1名、防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格4名を含む。

※3 防衛大学校合格1名、防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格1名を含む。

※4 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

- ※5 防衛医科大学校一次合格 1 名、防衛大学校一次合格 7 名を含む。
- ※6 防衛医科大学校合格 1 名、防衛大学校一次合格 8 名を含む。
- ※7 防衛大学校一次合格 6 名を含む。
- ※8 ウェスタンワイオミングコミュニティカレッジ（アメリカ）合格。
- ※9 防衛大学校一次合格 7 名を含む。

合格した主な大学は次の通りです。

〔国公立大学〕 九州大・広島大学・熊本大学・九州工業大学・長崎大学・佐賀大学・
大分大学・宮崎大学・静岡大学・愛知県立大学

〔私立大学〕 立教大学・東京理科大学・国際医療福祉大学・拓殖大学・帝京大学・
多摩美術大学・武蔵野音楽大学・同志社大学・立命館大学・関西学院大学・関西大学・
京都女子大学・西南学院大学・福岡大学・久留米大学・立命館アジア太平洋大学 他

（２）理数系に強い女子の育成について、進学実績から見てみると、大学進学者のうち理系学部学科への進学は 41.5%と高い数字を示しています。医学部医学科へは 8 年連続合格者を出しました。また、2019 年度は薬学部への合格者が増えたことも特徴的でした。生徒の特性を踏まえた学習指導の充実と視野を広げるための各種研修会への参加奨励等を行った結果と見ています。日常の取り組みとして中心に据えているのは「寄り添う指導」です。きめ細かな個別指導及び全体指導を行い、3 年間または 6 年間をかけての進路意識高揚と学力向上を図っています。これから必要とされる社会人基礎力とも言えるべき「主体性を持って前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の育成は本校が得意とする領域です。生徒に寄り添い、進路実現からその後にある自己実現まで見通したさらなる進路指導の充実を考えていきたいと思っています。

（３）複雑にグローバル化が進む中、国際的視野育成のプログラムを充実させ、国際交流の深化と語学研修の充実に努めました。

プログラム	概 要
カナダ修学旅行	高校 2 年生 (78 名) 10 月実施 バンクーバー周辺 6 日間 4 泊ホームステイ セント・トマス・アキナス校との交流
韓国研修旅行	高校 1 年一貫生希望者 (23 名参加) 10 月実施 ソウル・天安 姉妹校福者女子校との交流 3 日間 (うち 1 泊はホームステイ)
ニュージーランド研修	中学 3 年希望者 (16 名参加) 8 月実施 オークランド 10 日間 姉妹校セント・ドミニクス・カレッジでの語学研修
福者女子校との交流会	高校 2 年 7 月実施 九州への 3 日間の修学旅行の一環として生徒 (30 名)、教師 (4 名)、ガイド (1 名) 来校 本校生徒宅へのホームステイ
イングリッシュ・キャンプ	中学 1 年 (90 名参加) 7 月実施 2 日間 本校 英語漬け合宿 外国人講師 6 名
インターナショナル・キャンプ	中学 2 年 (87 名参加) 8 月実施 2 日間 本校 英語漬け合宿 外国人講師 6 名
海外留学 (1 年間)	高校 2 年 : 1 名 (アメリカへ)

出発	高校1年：5名(アメリカ、カナダ、スイスへ)
海外留学生の受け入れ	高校1年：1名(オーストラリアより半年間)
海外短期留学生の受け入れ	高校1年：4名(デンマーク、スペイン、アメリカより1週間)、 3名(タイより2日間)
聖マリア病院留学生(医療従事者)との交流(中学)	中学2年86名 9月実施 聖マリア病院留学生(JICA研修員)7名の出身国について事前に調べ、当日は質問をし説明を受けるなどして理解を深め、日本文化についても紹介した。

3 広報活動

中学校では、共学3年目の生徒受け入れとなる2020年度(令和2年度)入試で、入学者96名中に男子28名で29.2%(昨年度32.2%)を占め、約30%が男子入学者となりました。志願者数266名、前年度比23.7%増となり、96名入学で定員を6名上回りました。歩留まり率は前年度41.9%に対し、今年度は36.1%でした。中学校入試においては、以前のお試し受験会で、現在の信愛オープン学力診断テストの実施後に行っている個別相談会への参加者の入学率が高い傾向が続いています。また、学習塾との円滑な関係の構築、特に小学校への積極的なアプローチなど、広報戦略の展開を抜本的に見直し、2019年度同様小学校訪問を強化いたしました。

高校では、共学2年目の生徒受け入れとなる2020年度(令和2年度)入試で、高校1年160名中に男子22名で13.8%となり、高校からの入学者107名中20.6%、ホームルームでは約5分の1が男子入学者となりました。2016年度(平成28年度)から、従来の学際特進コースとS特進コースをそれぞれ学際コース、選抜コースとしました。学際コースは、4つのフィールド(教育・保育、食物・健康、医療・看護、総合)に加え、2019年度より新しく情報コミュニケーションフィールドを起こし、学ぶ内容が明確になるように名称を変更しました。2020年度(令和2年度)入試では志願者数339名、前年度比4.0%増となり、160名入学で前年度同数となりました。前年度歩留まり率49.1%に対し、今年度は47.2%となり前年度より1.9%下がりましたので、入学者数が定員160名にちょうどとなりました。また、推薦・専願入試での入学者が前年度とほぼ同数となりました。なお、本校中学3年生59名の内の53名89.8%の生徒が信愛高校に進学したことになります(昨年度は82.1%)。入学直後に共学化の発表をした学年でしたが、中学生とその保護者にとって高校や一貫生の魅力とは何か、丁寧な説明と指導により一定の理解を得られた結果と思われます。

高校の魅力のブラッシュアップも含めての高校の魅力づくりと進学実績の一層の向上が求められます。また、ICT教育の推進など本校中学生への進学の勧め方の工夫や、2021年度中学校全面実施、2022年度高校年次進行で予定されている新学習要領のスタートに向けて教育内容や広報計画について改善の必要もあります。

4 その他

- (1) 中学1年から高校3年まで学年単位、または学年合同で発達段階に応じた行事、テーマに合わせて、「神父様の講話」や神父様のご指導のもと行った「中3学年ミサ」、「錬成会」、「み

ことばの祭儀」、職員対象のミサなどを通して、カトリック学校としての教育理念の確認、「信愛教育」の徹底を図ってきました。

- (2) 同窓会との連携で、5月に「ロザリオの集い」（人生の節目となる40歳・60歳の集い）、1月に「信愛成人式」などを催し、卒業生と教職員・生徒との絆を大切にしつつ、「女性の一生をサポートする」学院の姿勢の明確化・定着に努めました。「野のゆり奨学金」が「野のゆり入学祝い金」となって4年目、同窓生の子女の入学をサポートしています。
- (3) 12月には高1を対象にキャリア教育の一環として地元経営者による「職業人としての心得」を学ぶ6人の講師による出前授業を実施しました。意欲的に働く大人と会話を通して将来の生き方について疑問を直接尋ね、「働く意義ややりがい」を知りました。
- (4) 後援会との連携で、「信愛近隣北地区」・「信愛近隣南地区」・「久留米市街東地区」・「久留米市街西地区」・「久留米南西地区」・「久留米北東・三井地区」・「田主丸・吉井・うきは地区」・「甘木・朝倉地区」・「八女・筑後地区」・「大川・柳川・大牟田地区」・「小郡・筑紫野・福岡地区」・「鳥栖・三養基・佐賀地区」の12地区のうち5地区で地区保護者会や懇親会が開催されました。また、地区においては、秋花祭のバザーで出店され、売上金の一部を生徒の教育活動の資金として寄付していただきました。
- (5) 後援会との連携で「信愛父親の会（Shin-ai Dads' Club）」が発足し7年目を迎えました。活動は5月に体育祭のテント立て、9月に文化祭警備、12月上旬のイルミネーション設置はバージョンアップされ多くの生徒の参加のもと盛大に点灯式が催されました。ご公現の日（1月上旬）まで灯されるイルミネーションは地域の方にも喜ばれています。
- (6) 2019年度は、高校に共学第1期生を迎え、中高6学年のうち、中1・中2・高1の3学年が共学化しました。新入生の中1・高1はそれぞれ90名・160名と、期せずしてぴたりと入学定員に達しました。入学定員を満たすのは、中学校で2010(H22)年以来9年ぶり（当時の定員は60名で66名入学）、高校では2001(H13)年以来18年ぶり（当時の定員は270名で273名入学）となりました。新入生のうち男子の割合は中1で32%、高1で25%（一貫生女子を除く）とまだそれほど高くありませんが、文字通り男女の協働を学院にもたらす新しい息吹を感じさせてくれています。特に、高1の共学1期生男子は、多くの女子に囲まれてやや気圧され気味のところもあるようですが、信愛の居心地の良さを象徴するかのよう、もともと不登校気味の生徒もいた中、全員がこの1年、元気に登校しそれぞれに学院生活を楽しくできたようです。

2020年度は6学年中5学年が、2021年度にはすべての学年が共学化します。しかし、共学化は、学院改革プロジェクト「信愛ひらくプロジェクト」の「目的」ではなく一つの「過程」または「手法」と捉えています。共学化により、個々の生徒の主体性の育成、多様性の受容、協働性の体得を目的とする学院改革を加速させていかなければなりません。

2020年高大接続改革を視野に入れたカリキュラムや教育プログラムの変更、（英語科4技能の強化）募集・入試に関わっての新規パンフレット作成、行事の検討、職員研修の取り組みに工夫をしました。教育場面においては、学習指導要領の改訂に鑑み、今後求められる「探究的な学習」にもいち早く取り組んでいます。

そして2021年度（令和3年度）は全ての学年で共学となりますのでこのことも併せて久留米信愛の将来を見据えて、その展望のもとに各種施策を進めていきたいと思います。

【久留米信愛幼稚園】

1 重点目標

ひとりひとりの存在を尊びながら、子ども達自身が育ち合う心を育む。

(1) 園児数の推移 (2018年度4月1日～3月末日/2019年度4月1日～令和2年3月末日)

		新入園児数	4月1日	4月末日	5月1日	5月末日	6月末日	7月末日	9月末日	10月末日	11月末日	12月末日	1月末日	2月末日	3月末日
2018年度	在園児数		147	213	218	221	225	230	230	230	254	258	263	268	273
	退園児数							-1	-2				-1		-6
	5歳児入園	1	1							1					
	4歳児入園	4	4		3	1		1		3					
	3歳児入園	22	22				1		1					2	
	満3歳児入園			5		3	4		1	20	4	5	6	3	8
	前年度満3歳児入園	39	39												
	計	66	213	218	221	225	230	230	230	254	258	263	268	273	275
2019年度	新入園児数		4月1日	4月末日	5月1日	5月末日	6月末日	7月末日	9月末日	10月末日	11月末日	12月末日	1月末日	2月末日	3月末日
	在園児数		145	219	226	228	231	237	237	235	249	253	251	258	261
	退園児数										-1	-3			-2
	5歳児入園	2	2		1				-1					1	
	4歳児入園				1				-1				1		
	3歳児入園	16	16							1	1				
	満3歳児入園			7		3	6			13	2	1	6	2	6
	前年度満3歳児入園	56	56												
	計	74	219	226	228	231	237	237	235	249	251	251	258	261	265

(2) 主な行事

月 日	行 事	内 容
4 月 6 日	入園式	
4 月 20 日	※入園説明会	2020 年度入園児対象
4 月 26 日	歓迎遠足	場所) 浦山公園 (親子レクリエーション)
5 月 8 日	学院総合防災・避難訓練	保育室移動後初めての訓練未就園児避難が円滑となる
5 月 17 日	※園見学会 (信愛わくわくツアー)	その他開催) 5 月 23 日
5 月 20 日 ～6 月 14 日	久留米信愛短期大学 1 年次前期実習	A クラス : 5/20・21、6/5～7 B クラス : 5/27・28、6/12～14 実習を前半・後半に分けて実施
8 月 4 日	水の祭典 (短期大学からだつくりゼミとのコラボ)	年長児の希望者のみ出演する。
9 月 13 日 ～10 月 12 日	修道会からの要請により海外研修生受け入れ	カンボジアの幼稚園で勤務する幼稚園教諭 2 名とシスター 1 名

9 月 15 日	第 8 9 回 信愛フェスタ	鼓隊演出方法を変更し実施
9 月 20 日	※園体験見学会 (信愛わくわく体験ツアー)	その他開催日) 9/24・9/27
9 月 28 日	※入園説明会	わくわくランドの中で開催
9 月 30 日	久留米信愛短期大学 1 年次後期実習	A クラス 10 月 7 日～10 月 11 日 B クラス 9 月 30 日～10 月 4 日
10 月 28 日	エコプロジェクト(対象:年長児のみ) 福岡県地球温暖化防止活動推進センター主催 エコアドバイザー 篠原 貴美恵 氏	エコバック使用の紹介と、「トマトちゃん の涙」(紙芝居) より買い溜めの無駄 防止と地産地消について学ぶ。
11 月 1 日	願書受付	
12 月 14 日	クリスマスお祝い会	登降園の時間を学年別に。
1 月 20 日	食 育 (対象:年長児のみ)	フードデザイン学科 2 年と幼児教育学 科 2 年のセミナー生よるカリブロと栄 養素の学び
2 月中旬	大東建託から工事現場のフェンスに展 示用絵画の依頼がある	年長児のみ制作に取り組む。(掲示期間 4 月中旬まで)
3 月 2 日	お別れ会 (ひかりの子の式)	音の和 music による演奏会が、新型コ ロナウイルス感染症感染予防のため変 更となる。(例年、卒園式後に蠟燭を灯 して退場する「ひかりの式」を、この 時に行った。
3 月 6 日	終了式	新型コロナウイルス感染症による完成 拡大予防の為 3 月 18 日 (水) の予定を 前倒しで園児のみで行う。
3 月 9 日	自由登園にて開園	自由登園期間中、およそ 40 名が登園。
3 月 14 日	卒園式	第 89 回卒園式 (卒園児 86 名) 時間短縮・人数制限の中で 30 分間の卒 園式が行われた。

2 保育活動

- ①信愛教育の 4 つの柱の中でも基本となる「キリストの教えに根差した教育」が園児にとって分かりやすい環境となるように取り組みました。特に、チャペルを訪れる機会を増やすことや、新しい聖歌を紹介し神様をより身近に感じられる機会を増やしました。
- ②子どもたちのモンテッソーリ教育活動の理解を深めるために教具活動の研修だけではなく理論の研修も園内で取り組む。子ども理解を深め必要な援助とは何かを問い続けながらの保育を行いました。フェスタ後の年長児には、「生命の表」という地球の起源を遡り「生命」は長い時間を掛けて自分に辿り着くことに気付く機会を得ました。世界に広がる多様性に触れることが出来る「文化の領域」の提供に取り組むことができました。
- ③クラス運営は 1 クラス単位の動きから 2 クラス毎の横割り活動の機会を増やし、より多くの

友達に出会えるように環境を配慮しました。

④個々に異なる発達段階の子ども達で形成されている異年齢児クラスでは、出来ることを出来ないお友達の為に援助をすることや、する様子を見守る等の関わり方を子ども自身が考え取り組む機会を持つことが出来ました。たとえ会話は円滑にいかずとも相手の気持ちに寄り添おうとする関わる姿がありました。

⑤年長児は円滑な就学を見据え、集団活動や傾聴し主体的に考え行動を選択する力が育つ取り組みとしてフェスタや聖劇の内容を配慮しました。また、絵画活動の中で自己表現が出来るような活動計画を重ねる取り組みを行いました。

3 園児募集活動

入園前から園の方針を理解していただくために募集活動の内容を細やかに取り組みました。

- ・4月20日（土）入園説明会 : 沿革・教育理念・目標が中心
- ・5月23日（木）園見学会 : 保育中の園舎の案内が中心。その後、園庭開放
- ・9月20日（金）体験会 : 保育中に子どもが個別活動を体験する。

（従来通り随時見学も行う）

来園を重ねる事で保護者も子どもも職員も親しみが深まり雰囲気が良くなりました。次年度も継続して行う事とします。昨年10月より施行された幼児教育無償化による変化は、就労の有無は目立たず、むしろ、教育に熱心な保護者の姿が増えた印象があります。

その他の園児募集活動としてPRポスターの掲示には在園児の保護者方の協力もいただき掲示活動に取り組みました。

4 預かり保育

預かり保育無償化の導入により「保育の必要性の認定事由に該当する子ども」が利用する所としての認識が高まるのではないかと予測され、就労にある家庭の増加から長時間利用者も増加を懸念していましたが、本園の保護者の就労スタイルは時短の方が多く、長期休暇中の利用は多いものの、通常保育時の利用は無償化前とさほどの変化は見られませんでした。

- ・保育室の空間を活動内容で区分し子どもが込み合わない様に工夫し保育に取り組みました。
（ブロック活動・読書活動・ままごと活動・机上の活動・昼寝の空間等）また、子どもの好きなお当番制を残し、日直・おやつ配り・皿の片づけ等を子どもたちが取り組んでいます。
- ・延長保育の19時お迎えが続く家庭がある場合は、保護者の就労の都合もありますが、子どもの立場に立ち、少しでもお迎えが早くなるように説得に取り組むこともありました。

5 未就園児募集活動 ーわくわくランドー

- ・新規入園者を集客するためにファーストイメージからのリピーター率を上げるために、次のような取り組みを行いました。

- ① スタンプラリー式の出欠カードを作成しシールの数に応じてプレゼントを渡しました。
- ② リピーターになるともっと楽しめると実感してもらうために敢えて同じダンスを毎回踊るようにしたが、効果が見られなかったため中断しました。
- ③ 毎回のイベント内容を具体的掲示しました。また、一定期間分をまとめて早めに掲示しました。好評だったのは、学院敷地内のスタンプラリーにて園バスの乗車体験や、制作後の

写真撮影会など。

- ・イベント性を強化したことで参加者が 2 ケタとなる機会が増えたため、次年度も同様に取り組みます。

	イベント性を強化する前					イベント性を強化した後						
日付	4/20	5/18	6/15	7/6	8/17	9/28	10/5	11/16	11/30	12/21	1/18	2/15
総数	1 2	9	6	1 9	1 3	2 5	6	1 9	1 2	1 8	1 4	2 5
新規	1 2	2	1	1 5	4	1 9	1	1 3	5	5	5	1 0

(8/31 エンジェルフェスタ開催は統計に含まない) エンジェルフェスタ：未就園児対象の運動会

- ・参加者の低年齢化に合わせて、親子体操の内容を良く検討し親子レクリエーション等子どもとどのように遊ぶのかと言った遊び方を親が知る機会としてのねらいも含むようにしたいと考えています。
- ・イベント内容によっては預かり保育にて登園している在園児も参加すると保護者に園の様子が伝わりやすく、わが子が入園した際のイメージをしていただけるように思います。

6 土曜学校

登園してから出欠確認までの活動時間をモンテッソーリ教具に触れる時間へ設定変更を行いました。子どもたち同士で教具活動をしながら新たな発見や懐かしさの中で充実した時間を過ごすことが出来ていました。グループ活動においては学年を混合に設定することで在園期間が重なっていない子ども同士が仲良くなるきっかけ作りとなりました。参加者の男女比率は多少男子が多い状況であり、卒園児を信愛中学校へ勧める企画を実施することが出来ませんでした。適当な人数や必要な時間等を計画し中学校のイベント等へ参加出来るよう次年度は試みます。

7 保育者の資質向上を図る

職員がすてきな笑顔を心がけるために職員室にアンパンマンのイラストを掲示しアンパンマンに負けない笑顔づくりに励みました。また、職員全員が同じ研修に参加する機会を得ることができ、新しい保育観の共有により、保育への意欲に繋げる事が出来ました。その評価として、保育事務管理を PC へ移行することや、保育内容の変更や、保育後の動きの変化等に対して好意的且つ積極的に協力し合い、より良い方法を見出そうと努力し続ける姿がありました。その姿は、モンテッソーリ教育の園内研修からもうかがう事が出来ました。

2 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

当学院は 2016（平成 28）年 9 月 20 日に「学校法人久留米信愛女学院 経営改善計画 2016（平成 28）年度～2020（平成 32）年度（5 カ年）」を策定し、同計画に基づいて経営改善を進めています。

同計画に定める主要な目標値と 2019（令和元）年度の達成状況は、以下の通りです。

	目標値	実績値	達成率
学生・生徒・園児数（人）			
短期大学	194	175	90.2%
高等学校	266	319	119.9%
中学校	201	237	117.9%
幼稚園	253	228	90.1%
専任教員数（人）			
短期大学	19	19	100.0%
高等学校	23	25	108.7%
中学校	16	16	100.0%
幼稚園	19	18	94.7%
専任職員数（人）			
法人部門	1	1	100.0%
短期大学	14	11	78.6%
高等学校	6	7	116.7%
中学校	4	4	100.0%
幼稚園	1	1	100.0%
事業活動収入（千円）	891,632	952,476	106.8%
事業活動支出（千円）	885,055	909,087	102.7%
基本金組入前当年度収支差額（千円）	6,577	43,389	659.7%

2020（令和 2）年度は経営改善計画の完成年度となります。教育・研究活動をさらに充実させられる財務基盤の確立を目指し、計画の達成に注力します。